

◆優良賞◆

感謝を形に

旭陵中学校 二年

木野 ゆずか

私はこの夏休みに家庭科で「一日分の食事を作る」という課題が出されました。私は、自分で一日分の食事を作ることがなかなか無かったのですが、一日分の食事を作るだけなら、そこまで難しくないだろうと、軽い気持ちで考えていました。しかし、実際に取り組んでみると、その考えは甘かったのだと気づきました。

まず私は、献立を考えるとところからつまずきました。朝、昼、晩でそれぞれ違う献立で、美味しく、かつ栄養が摂れる食事。考えなければいけないことが多く、想像以上に頭を悩ませました。たった一日分の献立なのに、決めるだけで時間がかかってしまい、思っていたよりもはるかに大変でした。

献立を決め、食材を揃えて、調理を開始します。しかし、いざ自分でやってみると、うまく均等に食材を切れない、火加減がわからず、食材にうまく火が通らない、と失敗の連続で、いつも見ている母のように、段取りよく進めることができませんでした。やっと作り終えても、片付けをしている間に次の食事を作る時になっていました。

たった一日、三食を用意しただけなのに、終わった頃にはぐったりとしてしまいました。作るのも大変、片付けるのも大変。それを毎日、家族の分まで当たり前のようにこなしている母の姿を思い出し、改めて、母の偉

大さに気づきました。

「今日のご飯、どうだった。」

と母に聞くと、

「うまくできていたよ。美味しかったよ。」

と言ってくれました。私はその言葉が、とても嬉しくて、心が温まりました。そう思うと同時に、今まで母にもっと、「美味しかった。」「ありがとう」などの感謝の言葉を伝えてこなかったことを、酷く後悔しました。

私は今まで、当たり前のようにご飯を食べていました。朝起きたら朝食があり、帰ってきたら、温かい夕食があること、何も考えずに、それを当然のように受け取っていました。

今回の経験を通して、「ありがとう」という感謝の気持ちを、言葉だけでなく、行動でも示していきたいと強く思うようになりました。大きなことはできなくても、毎日の中でできることを、少しずつ増やしていきたいです。

また、母だけでなく、家のことをしてくれる家族全員に対して、言葉はもちろん、もっと感謝を行動にできるような人になりたいと思いました。

私にとって、夏休みの家庭科の課題は、ただ料理をするだけのものではありませんでした。家族のありがたさに気づき、感謝の気持ちを形にすることの大切さを知るきっかけとなりました。